環境報告書　2015

白石川堤一目千本桜

御釜（宮城蔵王）

宮城の見どころ

仙台七夕

日本三景松島

鳴子峡＋大深沢橋

樹氷（すみかわスキー場）

株式会社オイルプラントナトリ

CONTENTS

ごあいさつ、会社目標・・・・・・・・・２

会社概要・・・・・・・・・・・・・・３～４

環境方針、経営理念・・・・・・・・・・５

環境管理組織体制・・・・・・・・・・・６

環境保全活動・・・・・・・・・・７～１１

■教育・訓練

■ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ活動

■安心・安全をめざして

■環境監査

■工場見学者様からの御意見

地域社会との関わり・・・・・１２～１３

協定書関連・・・・・・・・・・・・・１４

環境報告書について

本報告書は、株式会社オイルプラントナトリの２０１４年度の環境保全への取り組みと実績を報告するものです。

ごあいさつ

代表取締役社長
武田　洋一

高度経済成長によって、豊かな文明が栄えた社会環境を創り上げてきた素晴らしい20世紀・・・。

その豊かさと引き換えに生み出されてきた大量の産業廃棄物・二酸化炭素の増加に伴う地球温暖化の問題等も、また、20世紀の姿であるといえます。

そして、昭和32年来、先代の手によって、環境汚染の問題にいち早く取り組み、思考と努力によって、リサイクル事業における様々なノウハウと技術力を培ってきた時代でもあります。

「燃やす・埋める」行為から、「リデュース・リユース・リサイクル」へ、「20世紀・大量生産、大量廃棄時代」から、「21世紀循環型経済社会」へと環境問題に対し社会の在り方が、大きく変わり始めています。

ダイオキシン（環境ホルモン）をはじめ、人体への影響を与える様々な環境汚染を未然に防ぎ、省エネルギーを基盤に、限りある資源を有効に活かすことこそが21世紀の在るべき姿であると考えます。

これからも、私たちオイルプラントナトリは「環境保全と省エネルギー」の為に木くずや廃油を燃料にした、創業時の理念の基、自然環境との共生、そしてクリーンな社会環境・人にやさしい環境等、グローバルな視点に立った姿勢で事業に取り組んでまいります。より一層の御指導と御鞭撻の程を切に御願い申し上げます。

平成26年度 会社目標

平成２６年４月１日
株式会社オイルプラントナトリ

≪基本理念≫

私たちは「すてない」喜びを伝える事を業務とし
この地「広浦」に社員が集う『創造郷』をつくる事を目指す

スローガン

【 社内の仕事で「私のNo.１」を宣言し
次代を語りながらの協働 】

1. 顧客に対して

「なるほど」と感じ「ありがとう」と満足頂ける
産廃処理のプロであること

2. 社員に対して

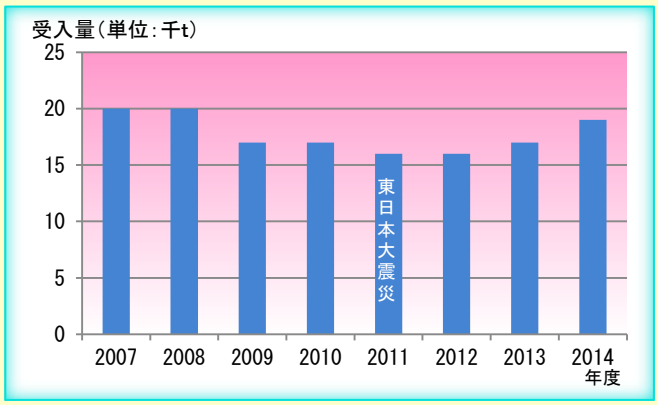
目標が共有でき、安心して夢を持ち働けると
感じられる関係をつくること

3. 環境に対して

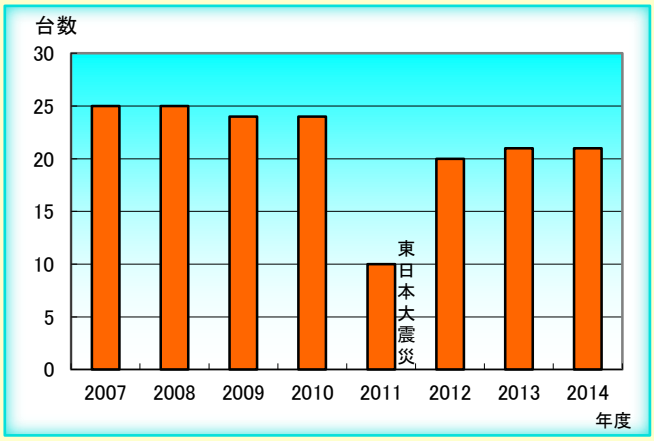
利益は大事だが、営利優先で地域や環境に
恒久的迷惑を掛けないこと

会　社　概　要

- 社　　名　株式会社オイルプラントナトリ
- 創　　業　昭和32年3月
- 本　　社　宮城県名取市増田三丁目4番3号
- 事 務 所　宮城県名取市下増田字広浦52番3号
  ☎ 022-382-2713　🖷022-384-0946
  E-Mail　opn-amenity@msf.biglobe.ne.jp
  URL　http://www.opnatori.co.jp/
- 第１工場　宮城県名取市下増田字広浦35番48号
- 第２工場　宮城県名取市下増田字広浦52番3号
- 法人設立　昭和63年4月
- 資 本 金　3，000万円
- 役職員数　46名（平成27年4月1日現在）
- 受入量



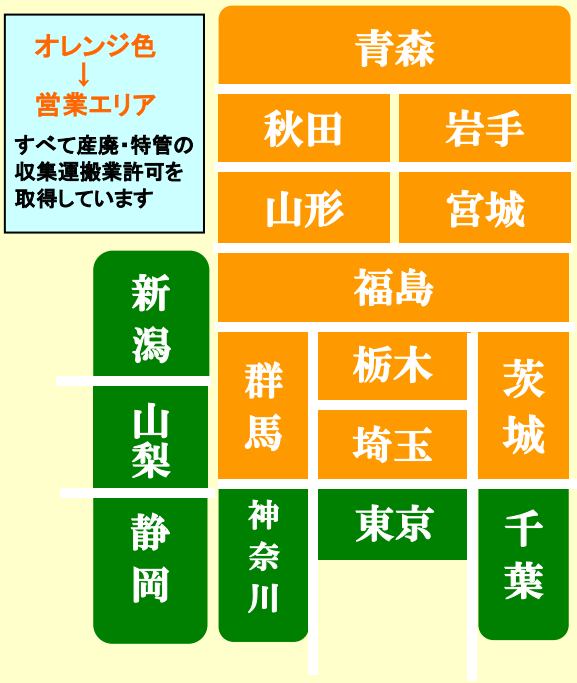
- 収集運搬車輌推移



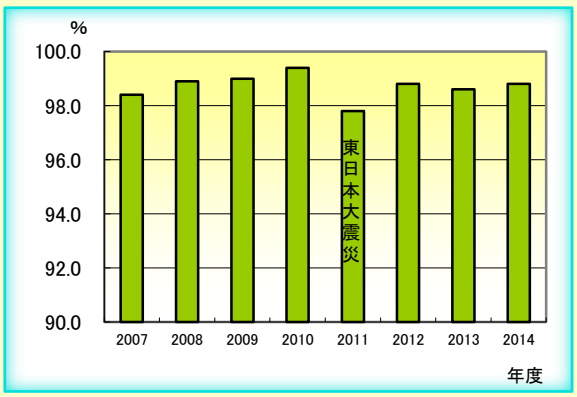
- 敷地

第2工場　7127.41m²　　第1工場　6230.71m²

- 産業廃棄物処分業許可
  産業廃棄物処分業　宮城県
  特別管理産業廃棄物処分業　宮城県
- 産業廃棄物収集運搬業・許可（県）



- 石油製品販売業者
  通商産業省第2-4-0-2740号
- 販売品
  - ・バイオECO燃料（BDF）
  - ・再生B重油
  - ・鉱物系補助燃料
  - ・塩素含鉱物系補助燃料
  - ・溶剤系補助燃料
  - ・塩素含溶剤系補助燃料
  - ・剥離剤
- 受注産業廃棄物のリサイクル率推移



〔主要設備および処理能力〕

❒ 車輌関係

（平成27年4月1日現在）

運搬車両	台数
12kℓタンクローリー	3台
10kℓタンクローリー	2台
4kℓタンクローリー	4台
12kℓ再生重油配達車	1台
12tウィングパワーゲート付車	1台
8tウィング移動中間処理車	1台
6tウィングパワーゲート付車	1台
6tユニックパワーゲート付車	1台
3tウィングパワーゲート付車	1台
3t平パワーゲート付車	2台
2t平パワーゲート付車	1台
2tローリーBDF配達車	1台
4tアームロール車	1台
ライトバン	1台
構内車両	**台数**
ホイルローダー	1台
バックホー	2台
フォークリフト	5台
6t平移動中間処理車	1台
4kℓタンクローリー	1台
2tダンパー車	1台
合計	**32台**

12tﾀﾝｸﾛｰﾘｰ

12tｳｨﾝｸﾞ

6tﾕﾆｯｸ車

4tﾀﾝｸﾛｰﾘｰ

移動中間処理車
（食品残渣付プラ）

4tｱｰﾑﾛｰﾙ

❒ 中間処理施設

・油水分離処理施設

廃オイル⇒再生重油
30m³／日（10時間稼動）

・混合処理施設

汚泥・木くず類⇒原料化
48m³／日（8時間稼動）

・破砕処理施設

廃プラ⇒固形燃料
11.4t／日（8時間稼動）

・中和処理施設

中和撹拌タンク
廃酸・廃アルカリ⇒加工用水
43m³／日（10時間稼動）

・混合処理施設

廃溶剤⇒代替エネルギー
水溶性廃液⇒加工用水
136m³／日（10時間稼動）

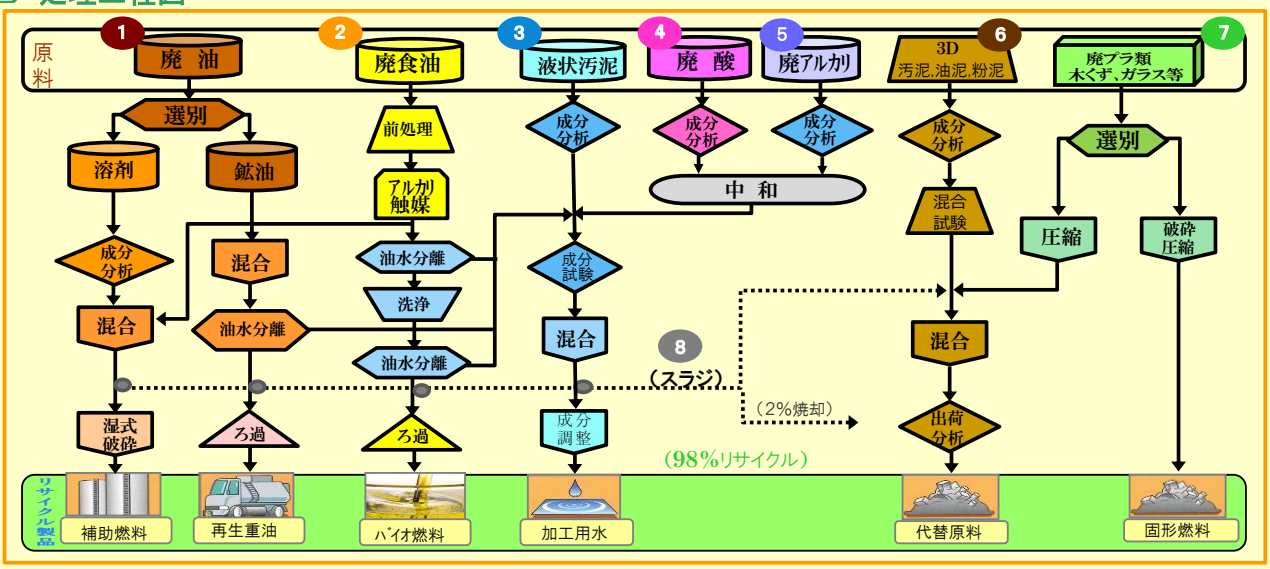
・廃食油の燃料化施設

てんぷら油⇒ﾊﾞｲｵﾃﾞｨｰｾﾞﾙ燃料
15m³／日（10時間稼動）

・廃棄物分析室

蛍光X線分析装置
ガスクロマトグラフ分析装置
電気炉、引火点、水分分析等

❒ 処理工程図



環境保全活動に関する方針

環境方針

株式会社オイルプラントナトリは廃棄物の有効利用、及び再資源化を通じて
生活環境の継続的な向上に全社員参加で貢献します。

1. 委託された廃棄物は、安全且つ適正な収集運搬と処分を行うと共に、有効利用、再資源化技術の向上に取り組み、環境保全、省エネルギー、省資源に努めます。
2. 作業工程での環境への配慮に努め、汚染の予防及び環境マネジメントシステムの継続的な改善をします。
3. 環境に関する法律、規制、条例及びその他要求事項を遵守します。
4. 環境目的、目標を定め、実施状況を確認し、定期的に見直しを図ります。

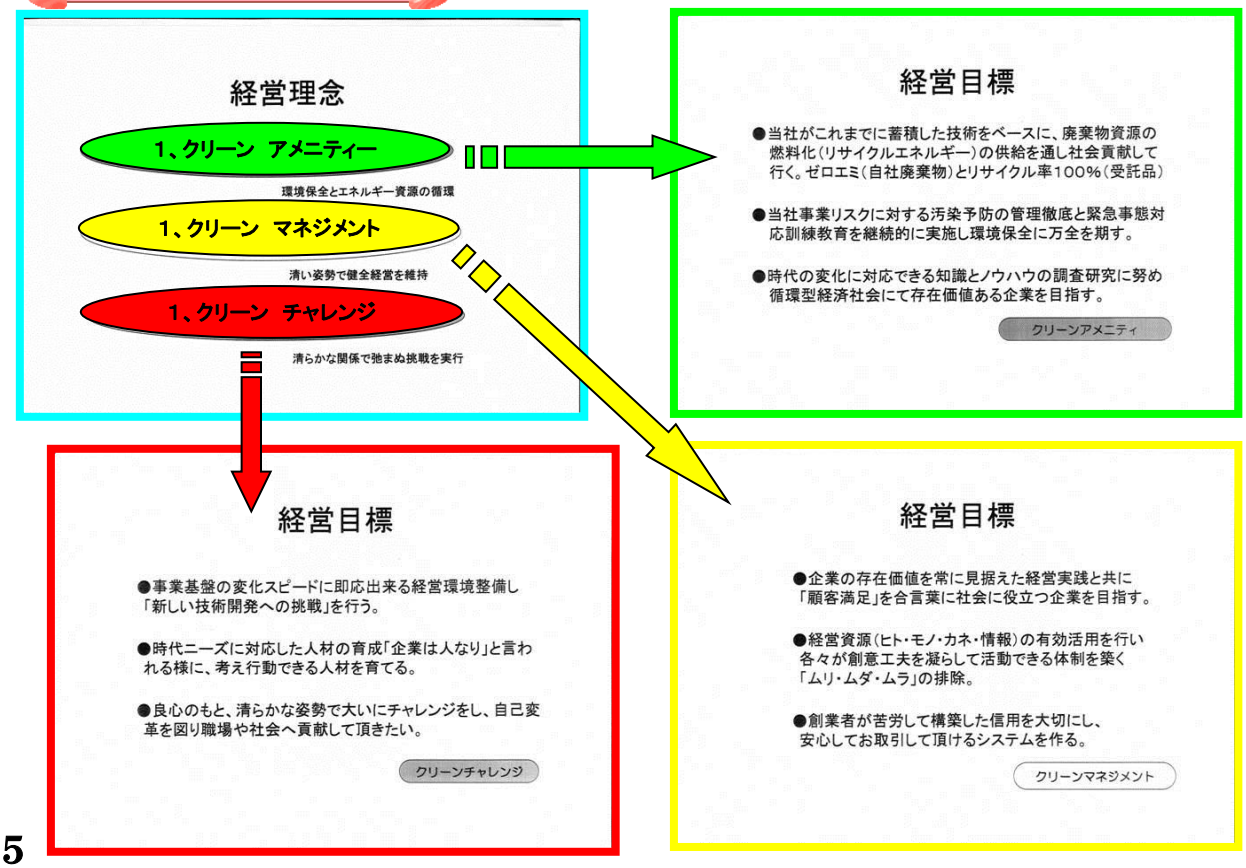
『≪もったいない≫をモットーに重点テーマを次に定めます』

- ◎ バイオＥＣＯ燃料（廃食用油の燃料化）による大気汚染物質の低減に寄与
- ◎ 施設・設備・作業環境の点検及び管理の徹底
- ◎ ＳＤＳや物性表の入手を徹底し廃棄物の安全性の確認により適正処理
- ◎ 収集運搬における車輌及び容器の点検及び管理の徹底
- ◎ 事業活動におけるエネルギー消費とCO_2発生の削減
- ◎ 廃棄物の燃料化、原料化、資源化のリサイクルの推進

5. この環境方針を継続的に実行するため、文書化し全従業員に周知します。
6. この環境方針は、積極的に社外に公開します。

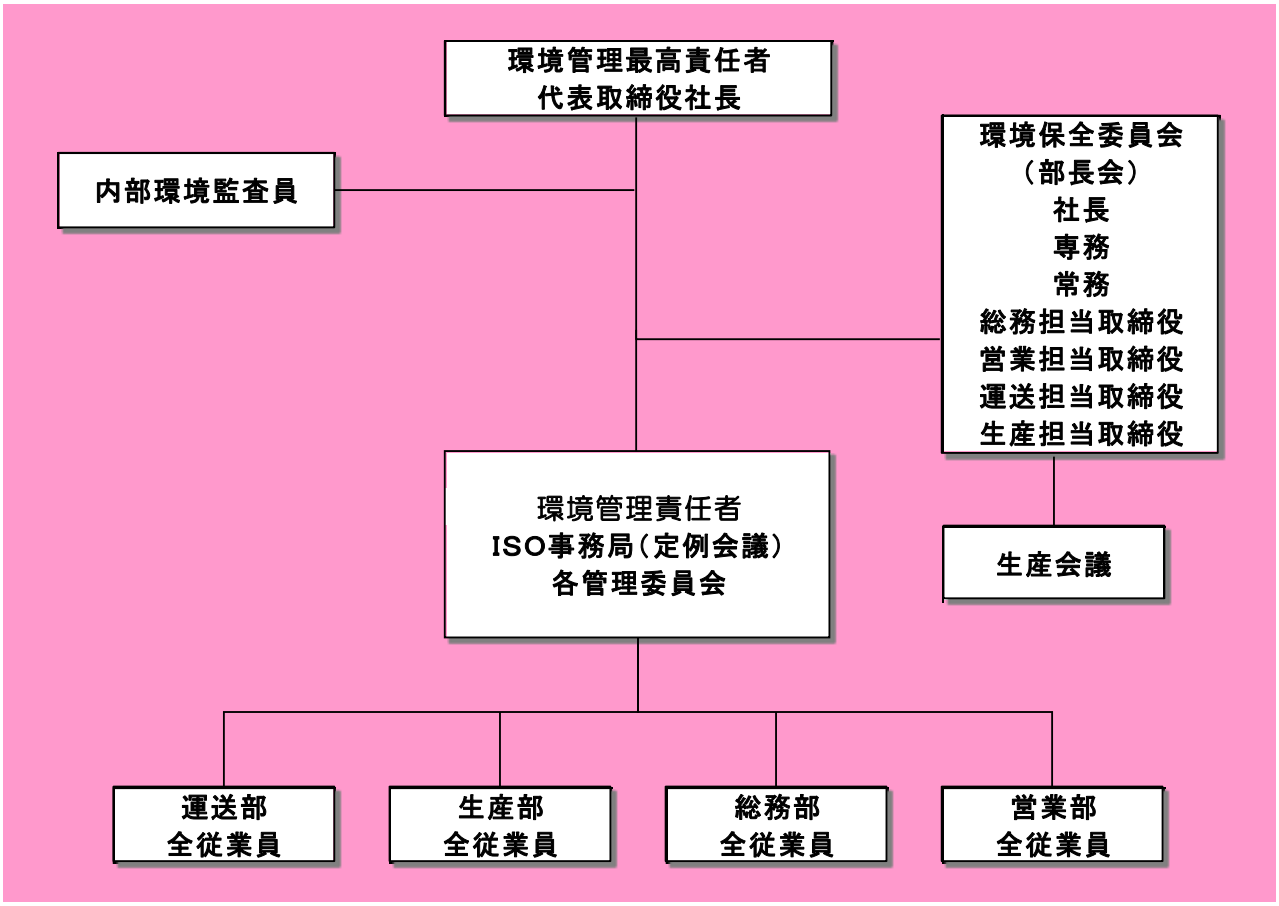
2015年1月16日
株式会社　オイルプラントナトリ
代表取締役社長　武田　洋一

経営理念

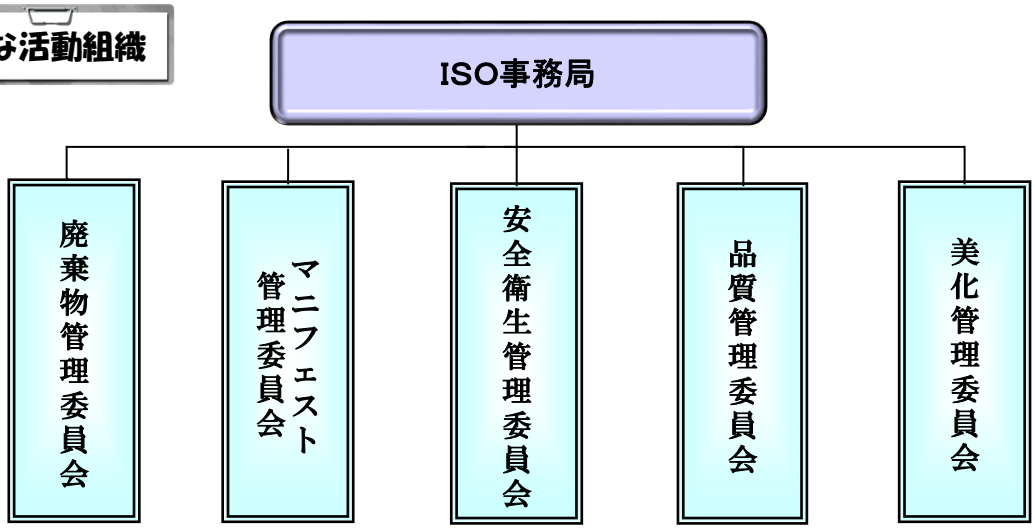


環境管理組織体制

当社の環境保全活動は、下図のような体制で運営されています。
メンバーが全員役員で構成される≪環境保全委員会≫を設置し、経営と現場の両方の視点から迅速な対応を実現しております。
また、事業活動全体の環境負荷を把握し、効率的な環境活動を行うため、ISO事務局会議や生産会議（各部間の連携を目的とする）および内部環境監査員、各管理委員会の協力の上で、定期的なチェック体制は欠かす事の出来ない重要な活動です。



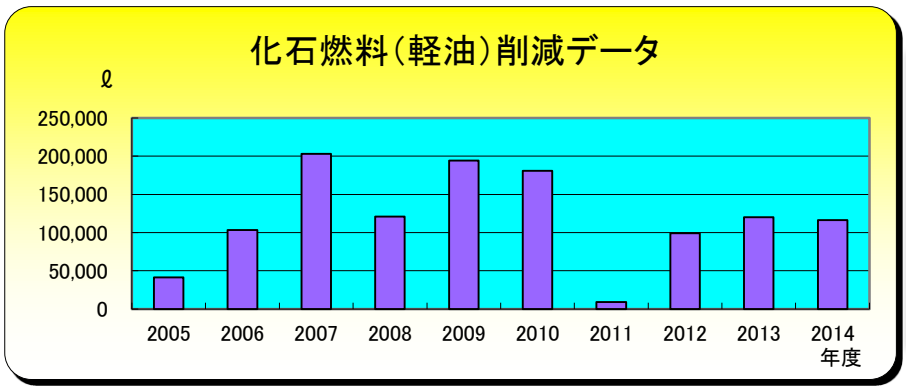
主な活動組織



環境保全活動

軽油使用量の削減

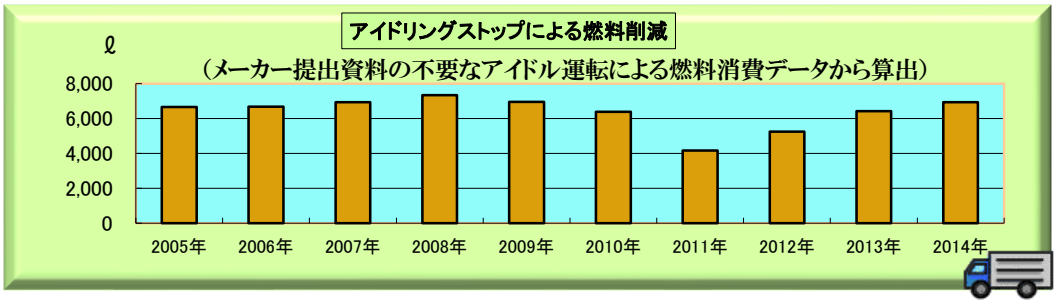
《エネルギー使用量の削減＝バイオディーゼル燃料11年の実績》



2004年12月から廃食油を原料としたバイオディーゼル燃料化を開始し、自社車両に給油し車両への影響や燃費などのデータを集めながら、11年間で自社車両57台への利用実績となっています。また、その活動に関心を寄せて頂いた行政・企業・個人の方々のご利用を含めると85台以上となっています。

アイドリングストップの推進

休憩時間や作業時にアイドリングストップを行い、6,930ℓの燃料削減となりました。



≪最新車両『ポスト新長期規制』への挑戦！≫

※最新車両へのバイオディーゼル燃料使用が難しいと思われていたが？

2tローリー　26年4月開始

12tローリー　26年5月開始

10tローリー　26年5月開始

4tアームロール　26年8月開始

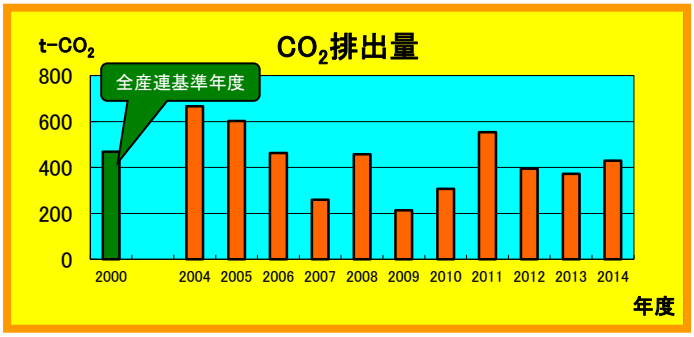
6tユニック　26年9月開始

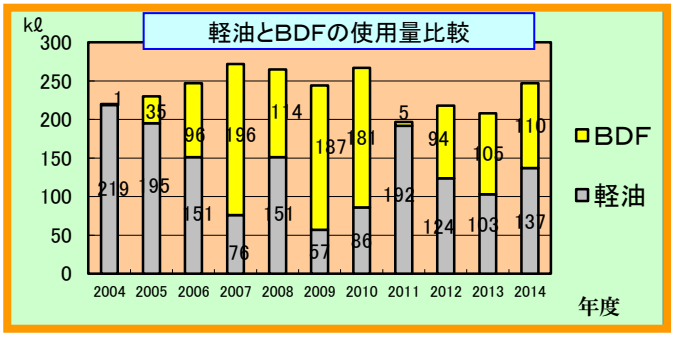
26年度中は5台とも不具合無し

長期間テスト必要

ＣＯ2の排出削減

弊社でCO2排出量が一番多いのは、収集運搬車、構内車両、営業車等の化石燃料の使用によるものです。その中でも軽油使用量が多い為、カーボンニュートラルのバイオディーゼル燃料を使用する事が、大変効果のあるCO2削減活動となっています。





26年度も、全国産業廃棄物連合会による基準年度の排出量を下回る事が出来ました。しかし、軽油使用量が前年度より33％増加した事から、BDF使用車両の促進に努めていきたいと思います。

バイオディーゼル燃料の品質及び利用上の注意点

バイオディーゼル燃料を販売してから10年目となりますが、宮城県からのご協力、東北大学からのご指導の下、お陰様で全国でも品質の高い燃料となっております。一方で、バイオディーゼル燃料をディーゼルエンジンにご使用になる際には、注意して頂く必要があります。まず、公道を走る車両は、陸運局へ届出が必要となります。車検証には下記の3種類の表記が有ります。

例1、廃食用油燃料併用

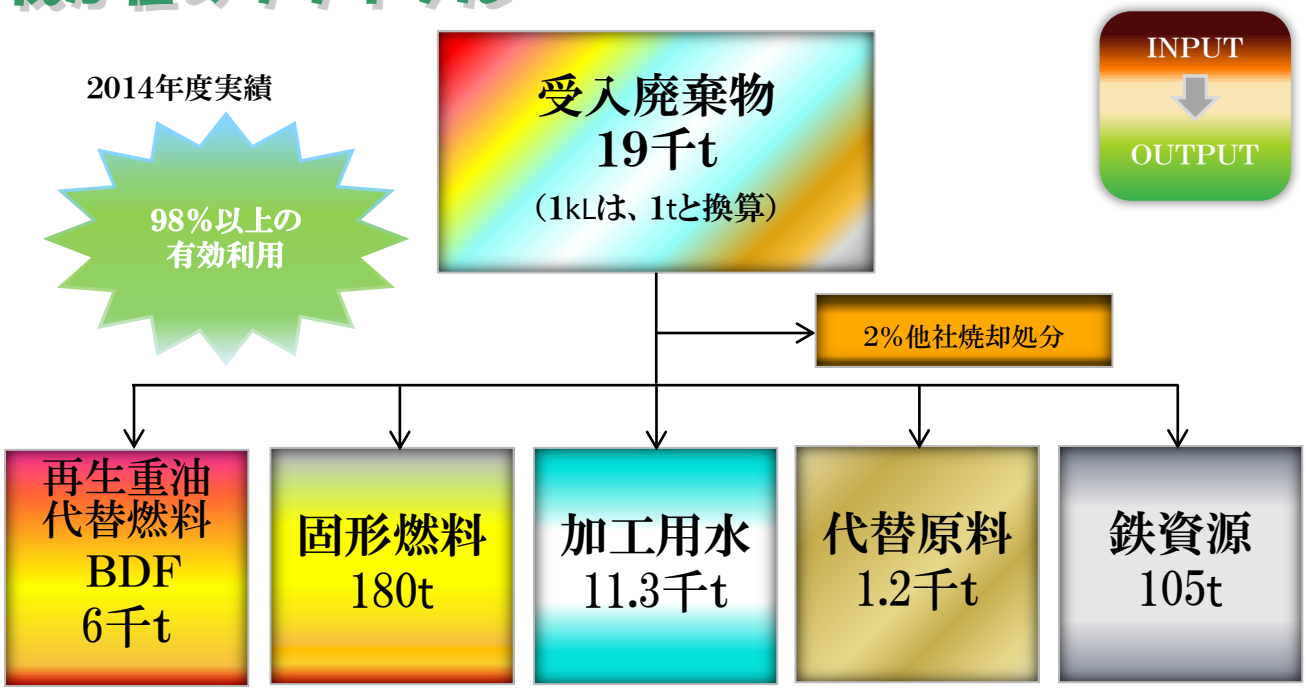
例2、バイオディーゼル100％燃料併用

例3、品確法特例措置高濃度バイオディーゼル燃料併用

軽油との混合禁止

更に、5％や20％でバイオディーゼル燃料を軽油に混合する場合は、新たに届出等が必要なため、弊社ではバイオディーゼル燃料100％で利用しています。

我が社のリサイクル



教育・訓練

社内全体研修

・第1回社内研修会　平成26年5月31日（土）

～交通安全教育及び労働安全衛生について～

目的：車両を運転する全ての人を対象に、交通ルールの遵守と正しい交通マナーを習慣づけるとともに、交通事故ゼロを目指す。また、労働災害が多い業界において、リスク低減の取組及び安全作業への意識を高める。

運送部管理者によるOJT　道交法の試験問題

安全とは？　リスクとは？

同業者の労働安全衛生法への取組紹介。

各自KYT記入用紙へ対策を記入。

・第2回社内研修会　平成26年8月30日（土）

～安全の見える化から安全の見せる化について～

目的：大きな事故を起こすと操業停止や補償問題へと発展します。「安全と安心」を具体化する為に、同業者や弊社の事故事例を踏まえ、もう一度「安全」を考えましょう。更には新しい事にもチャレンジし、社会の中で無くてはならない会社となる事を目指す。

ガス検知警報器

発熱時のシャワーリング

温度管理対策

現在取り組んでいる第1工場・第2工場の安全対策を全員で確認 → これからの安全対策

・第3回社内研修会　平成26年11月29日（土）

～事故を未然に防止する為の安全管理について～

目的：1、事故を未然に防止するための対策を検討
2、他社のリスク対策について自社への応用確認
3、無事故継続の取組手法を学ぶ

窒素ガス設備による火災防止

グループ討議

・第4回社内研修会　平成27年1月31日（土）

～防災知識の向上・経営計画の周知～

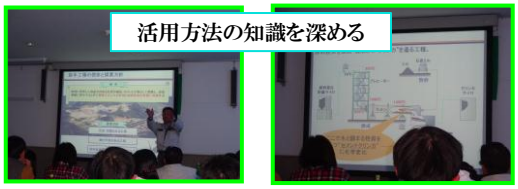
目的：1、BCP防災知識を学ぶ
2、26年度の実績予想と27年度の経営計画

防災知識と経営計画

・26年度社外研修　平成26年12月6日（土）

～全社員による工場見学会～

目的：自社で中間処理し供給した廃棄物等が、どの様に有効活用されているかを学ぶ。



活用方法の知識を深める

コンプライアンス活動

今年度は、労働安全衛生法を重点項目として調査し、今後必要な免許等を洗い出し、免許の取得および講習を受講させております。また、産業廃棄物の収集運搬や受入においては、許可品目内であること。契約品内である事を各部がチェック出来る管理システムを構築しています。

安心・安全をめざして

労働災害が多い業種である事を踏まえ、無災害記録目標を掲げています。また、全部署において作業における危険源を特定し、安全衛生パトロールなどで作業手順や作業環境の見直しと設備の工学的な管理策に取り組んでいます。

運送部KYT

生産部KYT

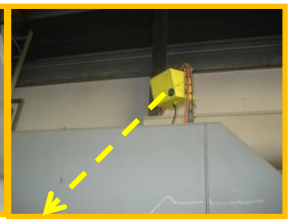
安全スローガン

安全パトロール

可燃ガス警報器

警告灯&サイレン

表面温度測定


感知センサー

60℃以上になると警報とパトライトが作動し。無人対策として3分以上停止しなければ警備会社へ自動通報。

環　境　監　査

自社の内部環境パトロール

ISO14001:2004
JSAE387

EMS Accreditation
RE005

ISO14001 第4-2回定期維持審査

2件の課題を検出して頂きました。

≪指摘の重要性≫
作業手順→運用基準→監視測定の繋がり

PRTR届出量

単位:kg

第一種指定化学物質の名称		取扱量	大気への排出	移動量
号番号	名　　称	平成26年度	平成26年度	平成26年度
53	エチルベンゼン	1,490	0.2	830
80	キシレン	38,604	1.6	4,200
186	塩化メチレン	6,735	6.5	0
213	N，N－ｼﾞﾒﾁﾙｱｾﾄｱﾐﾄﾞ	1,507	0.1	0
240	スチレン	2,811	0.2	410
300	トルエン	92,638	7.6	12,000
392	ノルマル－ヘキサン	7,652	3.6	0

ばい煙測定

SOx規制値（表に記載 N/h）　　NOx規制値180（volppm）

	H22.3	H22.8	H23.9	H24.6	H24.10	H25.5	H25.9	H26.4	H26.9	H27.3
硫黄酸化物排出基準値	1.17	1.17	1.17	1.3	1.8	1.1	1.6	1.6	1.7	1.6
硫黄酸化物（SOx）	0.08	0.15	0.22	0.11	0.38	0.08	0.03	0.17	0.17	0.14
窒素酸化物（NOx）	97	130	140	180	140	100	110	160	140	150

資格取得者

平成27年5月19日現在

1	産業廃棄物中間処理施設技術管理士	2名	18	第一種衛生管理者	3名
2	収集運搬業の許可申請に関する講習	2名	19	安全管理者選任時講習終了	2名
3	処分業の許可申請に関する講習	2名	20	職長・安全衛生責任者教育終了	1名
4	内部環境監査員外部講習修了者	14名	21	特別・職長教育終了	1名
5	特別管理産業廃棄物管理責任者	10名	22	有機溶剤作業主任者	7名
6	危険物乙種(4類)	35名	23	特定化学物質等作業主任者	5名
7	危険物乙種(1類～6類)	1名	24	酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者	7名
8	危険物丙種	4名	25	地下タンク等定期点検技術者	1名
9	安全運転管理者	2名	26	甲種防火管理者	1名
10	運行管理者	2名	27	ｶﾞｽｸﾛﾏﾄｸﾞﾗﾌ ﾙｰﾁﾝﾒﾝﾃﾅﾝｽ講習終了	1名
11	小型移動式クレーン	10名	28	2級ボイラー技士	3名
12	床上操作式クレーン	6名	29	小型ボイラー技士	3名
13	移動式クレーン	1名	30	車両系建設機械（整地運搬積込及び掘削）	3名
14	玉掛け	17名	31	車両系建設機械（整地等）	4名
15	フォークリフト	32名	32	電気工事士	1名
16	粉じん作業特別教育	1名	33	eco検定(環境社会検定試験)	7名
17	毒物劇物取扱者	3名	34	救命技能	18名

工場見学者様からのご意見

弊社では、お越し頂きました工場見学者様からご意見を頂いております。お客様から頂戴した有り難い御意見を「お褒め・アドバイス・要望・指摘」に分類し、関係する部署が対応する仕組みとなっており、管理業務の向上に結びついております。また、お客様のニーズを全従業員へ知って貰うために毎月回覧を行い、お褒めの言葉があると活力アップに結び付いています。

ﾋﾞｼﾞﾈｽﾊﾟｰﾄﾅｰとのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ

お褒めの言葉
47件

・リスク管理
・工場管理
など

アドバイス
6件

・防塵マスク使用
・会社の看板設置
など

要望
6件

・処理業者の紹介
・回収時のﾁｪｯｸ
など

指摘
3件

・火傷防止対策
・不明な表示
など

地域社会との関わり

平成26年度の工場見学者数は、113社・319名の方にお越し頂きました。見学者の中には、排出事業者様の定期視察の他、南海日日新聞社様（鹿児島県）、朝日テレビ様（静岡県）、事業継続推進機構様などの方々に東日本大震災で被災し、復興までの大変さと事業継続計画（BCP）の必要性についてご紹介いたしました。

また、天童市危険物安全協会様（山形県）、西置賜危険物安全協会様（山形県）などの方々に危険物管理について、滝沢市衛生推進委員者様（岩手県）、大崎市田尻地域衛生組合様（宮城県）、留学生（アメリカ）などの方々に、環境教育の一環でバイオディーゼル燃料が出来るまでをご紹介いたしました。

天童市危険物安全協会様

事業継続推進機構様

滝沢市衛生推進委員者様

〖宮城県と宮城交通様が協力して、バイオディーゼル燃料をバスに使用しています

平成19年度から継続して、BDF 100%の燃料で宮城交通株式会社様の路線バスに使用して頂いております。

〔過去の運行実績〕

平成19年8月24日出発式～平成26年12月末

宮城県資源循環推進課HPより引用

毎年バス4台使用、BDF総使用量は210kℓ

生協様や角田市様から廃食油を提供して頂き、弊社で精製し其々のトラックに給油する資源循環型社会が形成されています。

『わが社のe行動(eco　do!)宣言』登録書

わが社は、持続可能な社会を築き、将来世代に豊かな環境をのこしていくため、環境に配慮した行動を行うことを宣言しています。

環境配慮行動を決定し、宮城県に登録しています。

会社周辺の清掃活動

2004年から始まった地域の清掃活動は、東日本大震災で中断し復活して2年目となります。従業員からは緑化活動も復活させましょう。との声が上がり、清掃活動後に花（一部野菜）を植えてみました。
プランターでの育て方が素人には難しく、失敗続きで食育の勉強場となっています。

第1工場と第2工場間の歩道

第2工場20名参加
第1工場は別部隊で活動

緑化活動復活！

不法投棄のパトロールと撤去作業

産廃協会の宮城県南支部による不法投棄パトロールと撤去作業（2日間）に弊社から3名参加しました。

10月20日不法投棄パトロール

地元自販機設置業者の取組

Wi－Fi 搭載自動販売機の設置は、名取市で第1号となっています。利用範囲は自販機から半径50mで利用でき、停電時でも最大で3時間のWi－Fi 接続が可能です。（予備電源準備済）
登録不要で利用でき、災害時の情報インフラとしても期待している。

協定書関連

地域町内会との協定

弊社は、平成14年1月30日に会社周辺の飯塚町内会と環境にやさしい施設とする為、地域環境への負荷の低減に配慮した施設管理、公害防止の為の運営管理について万全を期し、環境保全に努める事を目的とした「環境保全のための協定書」を締結しております。

名取市との災害時協定

災害時には、防災安全協会に加盟する弊社に、名取市（名取市消防本部）より、災害時協定（要請）の第一報が入り、協力する事となっています。

全国組織の災害時協定

環境新聞 週刊 循環経済

多数の企業で画期的取組

BCP協定書を締結

環境省内で会見を開催

安心安全の廃棄物処理・リサイクル全国ネットワークを運営するエコスタッフ・ジャパン（東京・中央、田部和生社長、☎03・5643・7222）と、認定企業の代表として碩孝光氏（東亜オイル興業所）、武田洋一氏（オイルプラントトナリ）、矢板橋一志（ミダック）が行った。

災害時や事故発生時の事業継続に係るBCPについて、エコスタッフ・ジャパンと認定企業30社という多数の企業で協定を締結するもの。廃棄物処理業界のみならず、他の業界からも大変珍しく、画期的な取り組みだ。

ともに、通常の廃棄物処理を滞りなく行うことも必要になる」と述べた。

は、被災したオイルプラントトナリ（宮城県名取市）が自社のBCPに基づいて事業再開に取り組み、同社など東北の認定企業を他地域の認定企業が支援した。

田部社長は、「災害時には事業継続

環境省内で記者会見を行った

「いつでもどこでも安心安全の廃棄物処理・リサイクルが実現できる社会を目指す」というビジョンを持つエコスタッフ・ジャパン（株）は、優良な廃棄物処理・リサイクル企業の全国ネットワークの構築を進めています。

現在、全国から認定40社を超え、教育研修と情報公開が徹底された国内唯一かつ最大のネットワーク体となっています。平成25年6月27日 各企業の代表者が集まり、「自然災害や不可抗力」により事業活動が困難な状況に至った場合に、認定企業が相互に支援し合う事を目的とする協定を締結しました。

ＭＲＧの災害時協定

岩手のセメント会社に出入りしている同業者が集まり、自然災害や不可抗力により事業活動が継続困難な状況に至った場合に、会員企業が相互に支援し合う事を目的に「おたがい様共助」に関する協定を締結しております。（25年1月25日）

同事業内容企業との災害時協定

同業者の中でも、事業内容が最も似ている関東の業者と、上記同様に相互に支援し合う「おたがい様共助」に関する協定を締結しております。（24年10月1日）

また、販売している製品を生産できない状況に至った場合に相互に支援し合う事を目的とした「再生油に関する協定書」を締結しております。（25年6月1日）

バイオディーゼル燃料を使用すると
CO_2 カウントは ゼロ

植物は、成長過程で光合成によって二酸化炭素を吸収することから、バイオ燃料は二酸化炭素の増減に影響を与えないと考えられています。
これにより循環サイクル（カーボンニュートラル）が実現します。

弊社では、資源の燃料化をコンセプトに廃棄物の再資源化に取り組み、平成16年よりバイオディーゼル燃料の製造に取り組んでいます。この事業を通じて、県内の市町村や企業、地域の小学生から大学生、地域住民の皆様を対象に「てんぷら油のリサイクル」をテーマにした環境教育を実施し、宮城県と一体になってバイオディーゼルの普及に努めています。

子育てサポートしています
2013年認定事業主

次世代育成支援対策推進法に基づく基準適合一般事業主の認定（くるみん認定）を受けています。

株式会社オイルプラントナトリ
〒981-1201
宮城県名取市下増田字広浦52番3号
TEL　022-382-2713　　FAX　022-384-0946
E-mail：opn-amenity@msf.biglobe.ne.jp

---発行　2015年8月　ＩＳＯ事務局---